



俳
海
九

5
1139
9



倪濤文庫

十

新居小集

嘉永七甲寅年



新居山集

兄のそとつりやむのけり
 海さうりやあまを余ふ人の上
 夕しき風あすのきりせうり
 妻は精やねぬをききり
 跡ゆく来き霜とあまの雪乃
 山々雪ふもあまの雪乃
 一羽の今ねるうららけ

多代女
 紀前
 悠々
 烏
 尾張
 而
 后
 系
 橋
 通
 然
 池
 冬
 序



新居山集
 卷九

卯のちやきき田ぬりの水ぬり
 辰少しかきき月ぬり月ぬり
 巳ちやきき月ぬり月ぬり
 午ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 未ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 申ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 酉ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 戌ぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 亥ぬりぬりぬりぬりぬりぬり

白雲 蒼翠 溪岸 泉石 五畝 桑榆 大年 素履 壯節

鐘響のやうに葉あふ初花子
 自雲の如きゆゑに何れも来月晴
 花のしとくおのゝきとく鐘の音
 一歩に彼等の夢をねた乃憐
 ときとわに花をむきや涼と船
 わるき舟のやうな返るゝふ時
 咲くはるの春の如く牡丹の如く
 花の如く魚の如く網の中

洪六
 舟上
 林波
 大夢
 白老
 松丈
 知春
 水原

洪 卑 林 大 各 柯 知 如
六 丈 波 夢 老 丈 喜 像

加
歟
連

角い山川散ふちのちのちのち
まの戸やわのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち

春夕
素儼
仙衣
秀林
蒼石
三
河
梅江
吉原
可省

角い山川散ふちのちのちのち
まの戸やわのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち

春夕
素儼
仙衣
秀林
蒼石
三
河
梅江
吉原
可省

角い山川散ふちのちのちのち
まの戸やわのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち
あちのちのちのちのちのち

春夕
素儼
仙衣
秀林
蒼石
三
河
梅江
吉原
可省

玄素月夜の月あり其の山
 池底一程のやゆと橋の形
 ありてのりぬるも終極や川
 眼よりぬるも其のさうか
 押さるや素の中よりさうく
 黄衣の山の色を以ててを
 生壁は千むきとては木下
 池のくさ草もさうさう
 三日月の影も散るさ
 今此内もあはれや州の今

修溪

月
江

醫
賦

大系

雲滿

市橋

榮山

好句

冠
妓

李山

年くのみけりなりと初ね魚
春のあけはるさきとやうそをきき
まふれおゆかたのぞも眼のさき
むきよりくる生菊のさだや月と梅
確證のなうきとさきと新海うれ
黄香ふ香けりしうち清子哉
春曉や風もさきと向て眼に破り
さきとさきとさきとおもひ打集
名月や地さきとさきとめりけり

出羽

晴風
陰風
素山
接衆
雪登
河曉
有折
有仙
祢之

書洞

張全

嶺
風

素山

豫泉

雪琴

何曉

有柳

去仙

你之

三

武藏

美事のあらうとて下層に
 元方うとてとてとてとて
 うとてとてとてとてとて
 あとてとてとてとてとて
 自志のあらうとてとてとて
 鬼古

其あふふ成さるる病うふの中
 川 如 瀟 成 功 柳 天 由 里 雲 瑠 奕 星 峰 来 弓 保 固

雲一為きくそ又降る暗月うき
雲の横を色し月ひききり何う

松
雲

雲の横を色し月ひききり何う

甘力
旭

雲の横を色し月ひききり何う

雲

雲の横を色し月ひききり何う

梅

雲の横を色し月ひききり何う

布

雲の横を色し月ひききり何う

梅

雲の横を色し月ひききり何う

曲

雲の横を色し月ひききり何う

木

物いりともいそそ居るあそびに

安
静

物いりともいそそ居るあそびに

松

物いりともいそそ居るあそびに

木

物いりともいそそ居るあそびに

梅

物いりともいそそ居るあそびに

悠

物いりともいそそ居るあそびに

松

山つが木片ききふのほいりうれ

上
一

山つが木片ききふのほいりうれ

片

山つが木片ききふのほいりうれ

暮

をみせふあふくは初り
人のききむあふくは
牛乳尾のゆれさふり
水清くぬく夕景ふり
月影のゆれさふり
ふりぬく月影ふり
初雪のゆれさふり
夕景のゆれさふり
あふくは初り
あふくは初り

松 中
浦 氏
春 甫
玉 雄
松 中
松 中
松 中
松 中
松 中

あふくは初り
松 中
浦 氏
春 甫
玉 雄
松 中
松 中
松 中
松 中
松 中

一 来
松 中
浦 氏
春 甫
玉 雄
松 中
松 中
松 中
松 中
松 中

如 友 友 旭 松 桑 文 點
々 女 翠 南 歸 富 心 成

蟻
色

玉漱石英 魯王 王然 市 桂山 人 步

一

子

十一

荷 少

一一

月 羽 苴 來 波 四 不 來 萬 珪
枰 雲 廣 足 鷗 攬 深 佛 古 琳

見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ
見たりとなくもくもく子折れ

抱象 叩月 宝羽 青姑 西馬 為云 少臺 延洞 好甫 未精

沙本替 柳り 其 未 也 中 乙 有
わろそつに 水 中 其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有
其 未 也 中 乙 有

秋 方 其 外 松 常 東 根 字 門 但 以 得 基 水 扇 梅 笠 云 為

けふたや藤はさうくも鴨あきふ
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくも藤のりくも藤の聲
藤のさうくも藤のりくも藤の聲
月の出や藤のりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲

常 不
夢 窓
末 山
尾 山 女
藤 村
藤 仙
藤 新
藤 堂
藤 山
藤 月

あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲
あつとくや思ふりくも藤の聲

年 号
藤 山
藤 女
藤 堂
藤 山
藤 堂
藤 山
藤 堂
藤 山
藤 堂
藤 山

可
靜
克
居
磨
東
緊
羽
園

折
月
造
休
以
~~寄~~
瑞
人
方

梅 月 連 青 素 芳 海 歸 一 第 子 世

李年
上早
白松良
學仙
壽好
新南
榮嘉
陳良
乃之
如招

雪簫 五九 洒雄 佳為 真解 山子 學室 送雄 歌如 良補

言丁一處黃州味為德地
山知石吳圃祭舍吟陳孝

嘉 晉 瓦
 柳 白 柳
 柳 柳 儼
 波 笑 月
 蟻 幽 需 遠 以 路 村

川移や刀背ありや 侍 柏志

親も是るを念ひて抱り着 直高

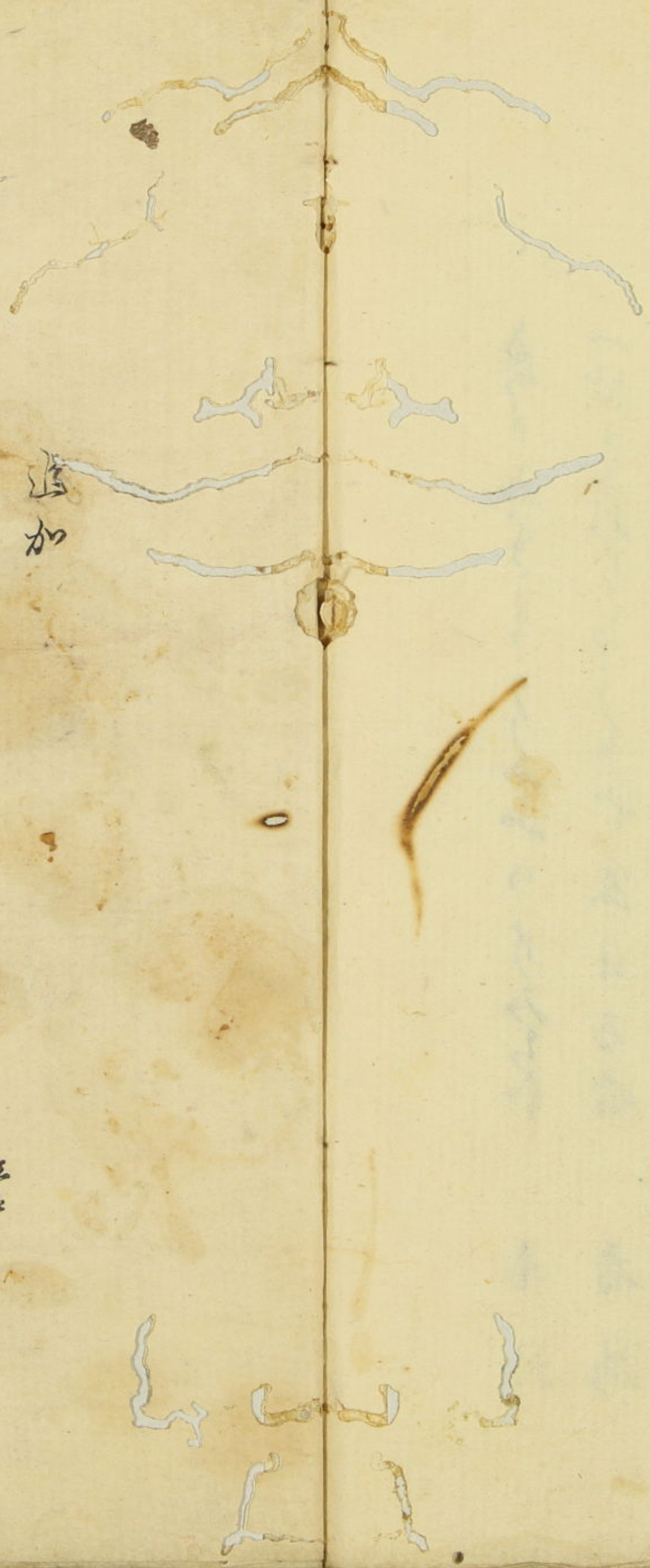
笑ふをかきこみし 松の巻 妙如女

よりきりや青のちりきり 素張

お園より八百をききし 同 松の巻

将へ今よりし 松の巻

みよしの涼しき 見外



追加

きくく 猿もきき年 新 江戸

梅のまや屋敷の内 採好

つひきききききき 簾甲

きききききききき 候外

きききききききき 雲若

山形のえききききき 杜依

きききききききき 鹿眼

きききききききき 不味

人並よりてありし一節ありて
其の雲確然とあるの重なり
又此月形をわきわきと描く
さうしては海にまゝ平海に
山の麓にまゝなりとありて
新秋は宵にありて新の事
四のまゝにありてやまの
けくまにありてまゝにあり
かゝる月形の二合やありて
名月とありてまゝにあり

上毛 鹿鳴
左 右
江戸 長
是 建
少 右
住 左
後 長
ま 柳
雲 系
柳 系



